

第325号 2013年3月1日
弘前大学総務部広報・国際課

学術講演会・研究発表会・公開講座

震災研究交流会～弘前大学のネットワークで震災研究を広げよう～開催のお知らせ

弘前大学大学院地域社会研究科では、「震災研究交流会」を下記により開催いたします。震災対応や震災研究に興味のある方はどなたでも参加・聴講できますので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

当日は報告の後に、震災に関する情報・意見交換を行います。

情報をお持ちの方はこの機会にご紹介ください。

1. 日 時：2013年3月5日（火） 18:00～
2. 場 所：弘前大学創立60周年記念会館コラボ弘大8F
八甲田ホール
3. 内 容：司会 檜 貢 弘前大学大学院地域社会研究科 研究科長

講演

「青森県における復興の現状評価と今後」

井口 泰孝 弘前大学学長特別補佐

「日本大震災における八戸圏域企業の行動」

佐々木 純一郎 弘前大学大学院地域社会研究科 教授

意見・情報交換

4. 対 象：一般の方、学生、教職員

問い合わせ先：弘前大学大学院地域社会研究科 檜 貢
電 話：0172-39-3938（内線3938）
E-mail：himaki@cc.hirosaki-u.ac.jp

「女性のためのよろず健康相談」開催のお知らせ

弘前大学大学院保健学研究科附属すこやかコミュニティ支援センターの「女性のためのよろず健康相談部門」では、保健師、助産師、看護師が地域連携の一環として相談窓口を開き、活動に取り組んでおります。

今回は、平成24年度最後の相談となり、ミニ講座と個人相談を予定しております。

「家族や自分の体調が気になる」「これって更年期の症状？」「最近尿もれが・・・」「育児で悩んでいることが・・・」など、様々な年代の女性が抱えるご心配に無料でお応えする機会です。ぜひお気軽にお出かけください。



1. 日 時：2013年3月7日（木） 14:00～16:00
2. 場 所：弘前市まちなか情報センター2F
3. 内 容：ミニ講座 ①女性のための尿もれのお話し 14:00～14:20
②それって病気？更年期のさまざまな症状 14:30～14:50

個人相談 随時行っています。

4. 料 金：無料

問い合わせ先：弘前大学大学院保健学研究科 健康支援科学領域
女性のためのよろず健康相談部門 西野 加代子
電 話：0172-39-5995

「北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究シンポジウム
東日本大震災からの地域復興を考える
先行事例から考える地域復興」開催のお知らせ

本フォーラムは、本学人文学部附属雇用政策研究センター長・李永俊教授を代表とする研究プロジェクト「北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究—社会・経済・法的アプローチ」の研究事業の一環として開催するものです。フォーラムでは、米国と日本の災害から復興を成し遂げた先行事例を学び、今からの北リアス地域の復興政策作りに活かしていくことを目標に実施します。東日本大震災からの復興を参加者のみなさまにお考えいただく上で一助になればと思います。

皆さまのご参加をお待ちしております。

1. 日 時：2013年3月10日（日）14:30～17:30
2. 場 所：弘前大学60周年記念会館コラボ弘大 八甲田ホール 8階
3. プログラム：
 - 14:20 開場
 - 14:30 挨拶 弘前大学学長 佐藤 敬
主催者挨拶 弘前大学人文学部長 四宮 俊之

○第1部 司会 小谷田 文彦 人文学部准教授

14:40～15:10 第1報告

Disaster Recovery and Reconstruction: Research and Practices at Disaster Research Center

Joanne M. Nigg University of Delaware Disaster Research Center

15:10～15:40 第2報告

Recovery and Reconstruction in Santa Cruz: Challenges, Processes, and Outcomes

Charles Eadie Hamilton Swift & Associate Principal Associate

休憩 10分

15:50～16:10 第3報告

「北海道南西沖地震を経験した奥尻島の20年」

定池 祐季 北海道大学地震火山研究観測センター助教



16:10～16:30 第4報告

「野田村におけるボランティアの連携：チーム北リアスの活動」
河村 信治 八戸工業高等専門学校・総合科学科教授
地域文化研究センター長

○第2部 パネルディスカッション

16:30～17:25 「東日本大震災からの地域復興を考える」

コーディネーター：李 永俊 研究代表者・弘前大学人文学部教授

パネリスト：渥美 公秀 大阪大学大学院人間科学研究科教授

顧 林生 四川大学・香港理工大学災害復興管理学院教授

神戸大学都市安全研究センター客員教授

Joanne M.Nigg University of Delaware Disaster Research Center

Charles Eadie Hamilton Swift&Associate Principal Associate

定池 祐季 北海道大学地震火山研究観測センター助教

河村 信治 八戸工業高等専門学校・総合科学科教授

地域文化研究センター長

17:25～17:30 閉会の挨拶 研究代表者 李 永俊

※参加費無料、申し込み不要

5. 主 催：弘前大学人文学部

6. 共 催：弘前大学ボランティアセンター

7. 後 援：弘前市

問い合わせ先：弘前大学人文学部附属雇用政策研究センター

電 話：0172-39-3198

FAX：0172-39-3189

E-mail: eprc@cc.hirosaki-u.ac.jp

URL: <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/eprc/>

「RNAから見た生命システムの新視点」報告会開催のお知らせ

1. 日 時：2013年3月11日（月） 14:30～17:00

2. 場 所：弘前大学コラボレーションセンター8階 農学生命科学部会議室

3. 主 催：弘前大学農学生命科学部RNA研究センター

問い合わせ先：弘前大学農学生命科学部 姫野 俵太

電 話：0172-32-7278

E-mail: himeno@cc.hirosaki-u.ac.jp

弘前大学「医用システム開発マイスター」養成塾
平成24年度アドバンストコース修了証・マイスター認定証授与式
および「医用システム開発マイスター」養成塾事業終了報告会開催のお知らせ

「医用システム開発マイスター」養成塾では、平成20年度に文部科学省 科学技術振興調整費（現在：科学技術戦略推進費）地域再生人材創出拠点の形成事業の採択を受け、青森県と連携して、精密機器の設計・製造を担う地域の技術者を対象に、企業の医療機器開発を先導できる人材育成を目指した研修コースを開講して参りました。

当養成塾では、最後の受講生が2年間の研修を経て、この3月に「医用システム開発マイスター」を認定される予定であり、また、「医用システム開発マイスター」養成塾は、本年度をもちまして5年間の人材育成事業を終了することになります。

これにあわせまして、アドバンストコース修了証・医用システム開発マイスター認定証授与式、ならびに養成塾事業の終了報告会を開催いたします。

事業終了報告会におきましては、これまでの取組内容や成果、そして、弘前大学および青森県における医療機器開発や医工連携の研究と人材開発に関する今後の展開等が報告されます。

ご多用中とはと思いますが、ご出席いただきますようご案内申し上げます。

文部科学省 科学技術戦略推進費
地域再生人材創出拠点の形成

弘前大学「医用システム開発マイスター」養成塾

平成24年度アドバンストコース修了証
マイスター認定証授与式
および事業終了報告会

日時 平成25年3月15日（金）13:30～
会場 ベストウェスタンホテルニューシティ弘前

■ 修了証およびマイスター認定証授与式 13:30～14:30
■ 「医用システム開発マイスター」養成塾 事業終了報告会
事業報告 14:45～16:45
記念講演
弘前大学における医工連携研究と今後の人材育成の取組
弘前大学大学院理工学研究科 教授 小野 徹郎
医用システム開発に関して医療サイドから期待するもの
弘前大学医学部付属病院長 教授 藤 行

■ マイスター認定証授与式
および事業終了記念交流会
17:00～19:00

■ 問い合わせ
弘前大学「医用システム開発マイスター」養成塾事務局
〒030-0191 青森県弘前市文政町1番地 弘前大学法人弘前大学大学院理工学研究科内
TEL/FAX 0172-39-2628 URL: www.master.hiroaki.ac.jp
E-mail: master@hiroaki.ac.jp

1. 日 時：2013年3月15日（金） 13：30～19：00

2. 場 所：ベストウェスタンホテルニューシティ弘前
（弘前市大町1-1-2 電話：0172-37-0700）
※第一部、第二部はサファイア、第三部はエメラルドで行います。

（第一部）平成24年度アドバンストコース修了証・マイスター認定証授与式
13：30～14：30

○次 第：開式の辞
来賓紹介
役員及び関係部局長紹介
アドバンストコース修了証授与
医用システム開発マイスター認定証授与
成績優秀者表彰
式辞 弘前大学長 佐藤 敬
挨拶 文部科学省 科学技術・学術政策局 科学技術・学術戦略官付
（調整・システム改革担当）専門職 松下 茜 様
挨拶 青森県商工労働部長 馬場 良夫 様
修了者代表挨拶
感謝状贈呈 株式会社コア代表取締役社長 椎名 啓祐 様
閉式の辞

（第二部）弘前大学「医用システム開発マイスター」養成塾 事業終了報告会
14：45～16：45

○次 第：開会の辞
総括責任者挨拶 弘前大学長 佐藤 敬
挨拶 経済産業省東北経済産業局長 山田 尚義 様
挨拶 青森県工業会会長 東 康夫 様
事業報告
・弘前大学「医用システム開発マイスター」養成塾の事業内容と成果
総括副責任者・弘前大学大学院理工学研究科 特任教授 牧野 英司
・連携自治体・青森県の医療機器産業振興への取組について

青森県商工労働部 次長 佐藤 雅秀 様

(休 憩)

記念講演

- ・弘前大学における医工連携研究と今後の人材育成の取組
弘前大学大学院理工学研究科教授・先進医用システム開発センター長
小野 俊郎
- ・医用システム開発に関して医療サイドから期待するもの
弘前大学医学部附属病院長 藤 哲

実施部局長挨拶 弘前大学大学院理工学研究科長 吉澤 篤
閉会の辞

(第三部) 医用システム開発マイスター認定祝賀会および「医用システム開発マイスター」養成塾
事業終了記念交流会

17:00～19:00

3. 申込締切：3月8日（金）

参加申込み・問い合わせ先： 弘前大学「医用システム開発マイスター養成塾」事務局
電話・Fax：0172-39-3674
E-mail：meister@cc.hirosaki-u.ac.jp

弘前大学大学院保健学研究科
「緊急被ばく医療検討委員会 平成24年度 第3回講演会」開催のお知らせ

弘前大学大学院保健学研究科では平成20年度から文部科学省特別経費事業として「緊急被ばく医療人材育成プロジェクト」に取り組んできました。平成24年度は本事業最終年度となり、これまでの活動の総まとめの年であり、また新たな活動を見いだしていく年でもあります。

そこで今回、「放射線診療における医療者への期待」と題しまして、高知医療センターがんセンター長 森田 荘二郎 氏に、新たな活動への足がかりとして、近年益々高度化・専門化していく放射線診療についてご講演いただきます。

緊急被ばく医療の枠を越えて、医療者として放射線診療にどのように取り組むことが求められるのか。画像診断やIVR治療について医療者の役割について学ぶ機会をもちたいと考えております。

多数のご参加をお待ちしております。



1. 日 時：2013年3月15日（金） 17:30～19:00（質疑応答を含む）
2. 場 所：弘前大学大学院保健学研究科 総合研究棟 第24講義室（6階）
3. テーマ：「放射線診療における医療者への期待」
4. 講 師：高知医療センター がんセンター長 森田 荘二郎 氏
5. 主 催：弘前大学大学院保健学研究科緊急被ばく医療検討委員会
6. 担当者：弘前大学大学院保健学研究科 緊急被ばく医療検討委員会 企画部門

※事前のお申し込みは不要です。どなたでもご参加できます。

問い合わせ先：弘前大学大学院保健学研究科健康支援科学領域 北宮 千秋
電話・FAX:0172-39-5945
E-mail：chiaki@cc.hirosaki-u.ac.jp

「2013年 弘前大学白神研究会 冬季観察会
白神山地スノートレッキング 春近い里山を散策しましょう」開催のお知らせ

1. 日 時：2013年3月30日（土）9：00～15：00（雪・雨天決行）
2. 場 所：西目屋村焼山 不識の塔・弘前大学白神自然観察園付近
3. 集 合：「ビーチ西目屋」駐車場
（車のない方はお申し出ください。8：00弘前大学正門集合）
4. 定 員：20名
5. 対 象：小学4年生以上（小中学生は保護者同伴）雪の中を3時間ほど歩きますので、高血圧、心臓疾患など持病のある方は、医師にご相談の上ご参加ください。
6. 参加費：1,000円（テキスト・傷害保険代金）
7. 服装・装備：服装はスキーウェア。足は長靴が最適オーバーズボンあるいはロングスパッツ。
かんじき・スノーシュー（ない方はお貸しします）。スキーのストック。
お弁当、暖かい飲み物。
8. 主 催：弘前大学白神研究会
9. 申 込：弘前大学白神自然観察園 山岸
電話・Fax：0172-39-3706
又は白神マタギ舎 牧田 電話・Fax：0172-88-1881
10. 締 切：最終申込日は3月27日（水）ですが、定員になり次第締め切ります。

問い合わせ先：白神マタギ舎・牧田
電話・Fax：0172-88-1881

「第61回情報処理学会 コンピュータセキュリティ(CSEC)研究会/
インターネットと運用技術(IOT)研究会 /
電子情報通信学会 情報通信マネジメント(ICM)研究会の合同研究発表会」開催のお知らせ

情報処理学会 コンピュータセキュリティ(CSEC)研究会は、下記の要領で第61回研究発表会をインターネットと運用技術(IOT)研究会/電子情報通信学会情報通信マネジメント(ICM)研究会と連催で開催いたします。

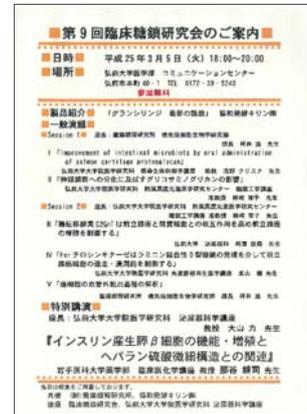
多数の論文発表の申込みをお待ちしております。

1. 日 時：2013年5月9日（木）10日（金）
2. 場 所：弘前大学60周年記念会館コラボ弘大 八甲田ホール 8階
3. トピック：インターネット、インターネットマネジメント、システム運用技術、
情報セキュリティ管理システム、情報倫理教育、組み込みセキュリティ、
ハードウェアセキュリティ、暗号、離散数学、その他一般
4. 発表申込締切：2013年3月12日（火）23：59
5. 最終原稿締切：2013年4月8日（月）23：59

※この開催は「連催」のため、それぞれの学会での発表申込受付となります。
詳細は <http://www.eit.hirosaki-u.ac.jp/cseciot/> をご覧ください。

問い合わせ先: 弘前大学大学院理工学研究科 長瀬 智行
電話: 0172-39-3632
E-mail: nagase@eit.hirosaki-u.ac.jp

「第9回臨床糖鎖研究会」開催のお知らせ(再掲)



1. 日時: 2013年3月5日(火) 18:30~20:00

2. 場所: 弘前大学医学部 コミュニケーションセンター
弘前市本町40-1 TEL: 0172-39-5240
※参加は無料です。

3. 製品紹介: 「グランシリンジ 最新の話」 協和発酵キリン(株)

4. 一般演題:

○Session 1 座長: 鷹揚郷腎研究所 癌免疫細胞生物学研究部 部長 坪井 滋 先生

I 「Improvement of intestinal microbiota by oral administration of salmon cartilage proteoglycan」

弘前大学大学院医学研究科 感染生体防御学講座 助教 浅野 クリスナ 先生

II 「神経細胞への分化に及ぼすグリコサミノグリカンの影響」

弘前大学大学院医学研究科 附属高度先進医学研究センター

糖鎖工学講座 准教授 柿崎 育子 先生

○Session 2 座長: 弘前大学大学院医学研究科 附属高度先進医学研究センター

糖鎖工学講座 准教授 柿崎 育子 先生

III 「糖転移酵素C2GnTは前立腺癌と間質細胞との相互作用を高め前立腺癌の増殖を制御する」

弘前大学 泌尿器科 飛澤 悠葵 先生

IV 「Ferチロシンキナーゼはラミニン結合性O型糖鎖の発現を介して前立腺癌細胞の遊走・浸潤能を制御する」

弘前大学大学院医学研究科 先進移植再生医学講座 米山 徹 先生

V 「癌細胞の血管外脱出過程の解析」

鷹揚郷腎研究所 癌免疫細胞生物学研究部 部長 坪井 滋 先生

5. 特別講演: 座長 弘前大学大学院医学研究科

泌尿器科学講座 教授 大山 力 先生

『インスリン産生β細胞の機能・増殖とヘパラン硫酸微細構造との関連』

岩手医科大学薬学部 臨床医化学講座 教授 那谷 耕司 先生

6. 共催: 鷹揚郷腎研究所、協和発酵キリン(株)

7. 後援: 臨床糖鎖研究会、弘前大学大学院医学研究科 泌尿器科学講座

※当日は軽食をご用意しております。

問い合わせ先： 弘前大学大学院医学研究科泌尿器科学講座
電 話：0172-39-5091

弘前大学大学院理工学研究科 最終講義のお知らせ（再掲）

今年度をもって退職される清水俊夫教授の最終講義を下記により行いますので、ご案内申し上げます。

1. 日 時：2013年3月8日（金） 15:00～16:30
2. 場 所：弘前大学理工学部1号館 5階 10番講義室
3. 演 題：「私のゲノム情報解析事始め - TMタンパク質のバイオインフォマティクス研究 - 」

問い合わせ先： 弘前大学大学院理工学研究科 成田明子
電 話：0172-39-3634
E-mail: slnari@eit.hirosaki-u.ac.jp

学 内 掲 示 板

弘前大学男女共同参画推進室からお知らせ

「研究者のトビラ」開催のお知らせ

弘前大学男女共同参画推進室では、若手を中心とした進化・行動生態学者9名を弘前大学にお招きし、以下の要領で「研究者のトビラ」を開催いたします。

午前の部では、見やすい資料やポスターの作成方法を東北大学の高橋佑磨氏が実演を交えて解説します。午後の部では、「オスとメスの関係を取り入れた生物の世界の新しい理解」を共通テーマに、タンポポ、イヌノフグリ、マメゾウムシ、チョウ、カメムシ、バッタ、トンボなど、昆虫を中心とした身近な生物たちを用いた研究をわかりやすく紹介します。その他、研究をはじめたきっかけや背景、仮説の証明方法、共同研究の大切さ、うまくいかないときの乗り越え方、研究の成果の広め方、研究の上で大事なことや苦労などを語ります。また、行動生態学と他の研究分野との関連性や、研究成果がどのように役立つのかについても紹介する予定です。

このセミナーは、学生の方にも研究者の方にも楽しく有意義なものとなるようにと、多様な話題ながらもまとまりがあるように工夫しました。地球上のあらゆる物体がニュートン力学の法則に従って運動するように、生物の世界は自然選択によってすみずみまで合理的に形成されています。「生物学」は暗記ものではないことを実感してください。

1. 日 時：2013年3月25日（月） 10:30～18:30
2. 場 所：弘前大学 総合教育棟 304号室
3. 内 容：
午前の部：効果的な研究成果公表のデザインテクニック（10:30～12:10）
伝わるデザインの法則と小ワザ：あらゆる資料を見やすく美しく
高橋 佑磨 氏（東北大学）



午後の部：オスとメスの関係を取り入れた生物の世界の新しい理解

第1部：オスとメスの関係による分布とすみわけの解明（13：30～16：10）

少年時代のなぞを大人になって解く 西田 隆義 氏（滋賀県立大学）

生物の教科書にけんかを売る一仮説を検証する意味—

岸 茂樹 氏（東京大学）

共謀する楽しみ～メスの過ちをいかに暴くか？

西田 佐知子 氏（名古屋大学）

雑草を探して島めぐり～外来種侵略の真実と科学的検証のリクツ～

高倉 耕一 氏（大阪市環科研）

笹枯れで分かった棲み分けの仕組み：クロヒカゲとヒカゲチョウに起こった天変地異

井出 純哉 氏（久留米工大）

第2部：性はなぜあるのか—性が種内で果たす役割を解明する（16：20～18：30）

オスがなくならないのはなぜ！？～“モデル”から挑む生物学最大の謎～

川津 一隆 氏（京都大学）

危険すぎる異郷のオスとの恋：カメムシのメスに訪れる悲劇的顛末

日室 千尋 氏（岡山大学）

天敵から身を守る工夫～生態学が見るバッタ・ロボット工学と見るバッタ～

鶴井 香織 氏（弘前大学）

少数派からみた多様性の進化学：トンボの色彩変異を例に

高橋 佑磨 氏（東北大学）

問い合わせ先：弘前大学男女共同参画推進室 鶴井 香織

電 話：0172-39-3885

E-mail：tsuruik@cc.hirosaki-u.ac.jp

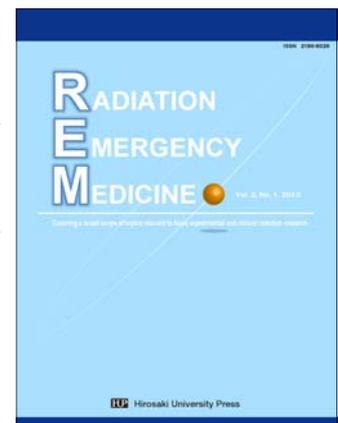
URL：<http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/tsuga-ru/kagaku/index.html#schedule-130325>

弘前大学出版会から新刊のご案内

Radiation Emergency Medicine編集委員会編「Radiation Emergency Medicine Vol.2 No.1」（A4変形判・88頁・定価1,100円：税込）を出版しました。

弘前大学は、さまざまな原子力関連施設が立地する青森県における唯一の総合大学として、万が一の事態に際して地域の安心・安全を確保するため、被ばく医療に関連する取組を推進してきた。平成22年度からは、科学技術戦略推進費による地域再生人材創出拠点の形成事業「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」を、青森県との連携・協力事業としてスタートさせた。この事業の一環として、緊急被ばく医療に関連する研究成果の情報発信およびその共有を目的に、平成24年3月に被ばく医療に関する学術誌を発刊した。本誌は、世界に発信しグローバルなつながりの中で研究を深めていくために、英文での発行とした。今回の第2巻1号では、「チェルノブイリ事故後の健康への影響」、「福島第一原子力発電所事故後の子供の甲状腺スクリーニング調査」等、13報の有用な論文が掲載されている。

今後も、疫学調査、生物影響、線量評価、被ばく医療教育、放射化学分析、放射線看護、放射線計測、放射線防護、臨床研究など広い分野にわたる論文を掲載していく予定である。



教育学部教授 秋葉まり子 編著「グローバリゼーションの中のアジア—新しい分析課題の提示—」(A5判、289頁、定価3,360円：税込)を出版しました。

本書は、第Ⅰ部「グローバリゼーションとアジア」、第Ⅱ部「金融」、第Ⅲ部「環境」、そして第Ⅳ部「食糧と労働」の4部構成になっていて、今日のアジア経済が直面する様々な課題に迫ろうとしている。グローバリゼーションの流れの中にあるアジアの経済発展の姿を多角的に追いつながりながら、この急激な変動に身をさらしている国々の経済メカニズムを実証的、理論的側面から捉えようとした研究者達の知的冒険の試みである。



ご興味をお持ちの方は大学生協または市内の書店でお買い求めください。

弘前大学出版会から出版のための企画募集

弘前大学出版会から著書の出版を希望される方は弘前大学出版会にご相談ください。出版企画提案書の書式を添付ファイルでお送りいたしますので、ご記入の上、ご返送ください。詳細についてはご連絡いただいた折に、ご説明いたします。

問い合わせ先： 弘前大学出版会（附属図書館内）
電 話：0172-39-3168
F A X：0172-39-3171
E-mail：hupress@cc.hirosaki-u.ac.jp

国立大学協会情報誌「JANU」「JANU別冊」について

本学が会員となっている「一般社団法人 国立大学協会」では、各国立大学の現状や優れた取り組みなどを分かりやすくまとめた国立大学協会情報誌「JANU」「JANU別冊」を作成しています。下記URLより最新号を含め、今まで発行されたバックナンバーをご覧いただけます。
<http://www.janu.jp/report/infomation.html>

第25号・第23号・第22号において、本学記事が掲載されていますのでご覧ください。

編集担当から) 講演会、研究発表会、部局行事等の掲載原稿を発行予定日(毎月1日と16日の2回)の7日程度前までに、下記のところまでご提供ください。お待ちしております。
◎担当：総務部広報・国際課広報・国際グループ
E-mail：jm3012@cc.hirosaki-u.ac.jp Fax:39-3498、内線：3012